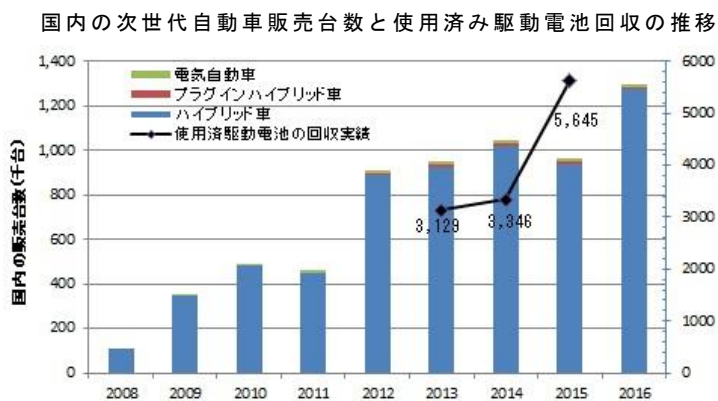


## 急増するカーバッテリー、再利用に向けて

### ◆使用済み駆動用電池は、今後増加の一途

次世代自動車の普及に伴い、使用済み駆動用電池のゆくえも注目される。自動車リサイクル法で解体段階において使用済み自動車から再資源化を行わなければならない事前回収物品（鉛蓄電池やタイヤなど）に、ニッケル水素電池（NiMH）とリチウムイオン電池（LiB）が2012年2月に追加、義務化\*された。各自動車メーカーは解体事業者向けに車種別の取り外し・回収マニュアルの情報提供を行い、廃車になった際はこれに沿って取り外し作業が行われている。

ハイブリッド車やプラグインハイブリッド車、電気自動車の国内販売台数は16年に130万台を超え、20年には230万台との目標値もある。経済産業省によると、NiMHとLiBを合わせた15年度の使用済み駆動用電池の回収実績は5,645個であり、今後、使用済み駆動用電池は増加していく。



出所：日本自動車工業会などよりARC作成

\*「使用済自動車の再資源化等に関する法律施行規則」

### ◆リチウムイオン電池の再利用と、再資源化の技術開発が活発化

17年6月、仏ルノーは英Powervaultと提携して、電気自動車で使用済みとなった駆動用電池を住宅用定置型蓄電池とする取り組みを開始するなど、使用済み駆動用電池を再利用する事業が、国内外で数多く発表されている。

再資源化技術例では、住友金属鉱山が7月、熱処理などで無害化された使用済みLiBやその製造過程で発生する中間物から銅とニッケル（Ni）を回収して電池材料への再資源化を実用化したと発表した。回収されたNiは正極材料に加工される。

使用済み駆動用電池の劣化状態を適正に診断して再利用するべきか、再資源化するべきか、最適な資源循環が実現されることを期待したい。 【米山久美子】